

15 日前	/	実施者へ当日の待ち合わせ場所・時間（宿泊先からの送迎等）確認	<input type="checkbox"/>			主催者へ宿泊先情報・交通機関・最寄の到着時間の報告	<input type="checkbox"/>
10 日前	/			主催者に講師人数・到着時間等最終確認	<input type="checkbox"/>	シェアラー（YYSP スタッフ）への書類送付 実施校の詳細・プログラム 交通手段 宿泊先	<input type="checkbox"/>
前日	/	準備物・ワーク用印刷物の確認	<input type="checkbox"/>	会場設営 事前アンケート実施	<input type="checkbox"/>	宿泊先等でのシェアラーによるリハーサルの実施	<input type="checkbox"/>
当日	/	実施 実施者の送迎・YYSPの手伝い 保健所での検査・相談情報	<input type="checkbox"/>	実施 生徒への入退場の指示 (場合によって生徒へ筆記用具持参を指示)	<input type="checkbox"/>	実施 シェアラーとのYYSP内容振り返り	<input type="checkbox"/>
当日 又は 後日	/	主催者担当者の事業評価票記入	<input type="checkbox"/>	実施協力校担当者の事業評価記入	<input type="checkbox"/>	実施責任担当者の事業評価記入 主催者および協力校へ礼状の送付	<input type="checkbox"/>
	/	実施校へ文化祭や事後学習（世界エイズデーの予防展）協力	<input type="checkbox"/>	対象者に事後アンケート・学習文化祭企画（キルト作成等）	<input type="checkbox"/>	主催者および実施校のサポート	<input type="checkbox"/>

### 事前の配慮をお願いしたい事項

#### ①マスコミ関係者の取材禁止

ワークショップの内容については性に関わる内容等含まれるため、生徒がマスコミの撮影等によって集中出来ず、参加意識が薄れたりすることがあります。また、一部マスコミ関係者は学校関係者や生徒へ許可なくインタビューしたり、ワークショップに対する間違った認識での報道の可能性を否定できず、場合によっては主催者・実施協力校・生徒の心理的配慮の為にワークショップを中断または中止しないといけない状況になることもあり得るため、マスコミ関係者の入場は場合によってお断りしております。但し、ワークショップの内容についての取材ではなく、社会的取り組みの観点から取材するような場合などは事前にマスコミ関係者と協議して3者の了解を得られる場合には取材が可能な場合もあります。その際には生徒に取材がある旨を事前に伝えます。

### 当日の配慮をお願いしたい事項

#### ①撮影・録音等の禁止

主催者および実施校においては、当日のワークショップでの写真撮影・ビデオ撮影はご遠慮願います。但し、実施者の講演の様子等を記録等で撮影される場合に限り（写真撮影）、事前に実施担当者に協議願います。この場合特に生徒が入らないよう（肖像権の侵害に）充分ご注意ください。

また、録音ならびに講演録の作成はご遠慮ください。

#### ②ワークショップにおける先生方と生徒との距離

当日は担任等、先生方は出来る限り会場の後方で生徒を見守っていただくよう、お願いします。これは、性については極めてプライベートな側面があり、生徒が、態度を観察されることに不安を抱く場合があるためです。生徒が安心した空間で学べるよう、よろしくご協力願います。但しこれは、若者によるワークショップの部分であり、「いのち」についての講演の部分についてはこの限りではありません。

なお、上記の「撮影・録音」および「学校関係者と生徒との距離」については、事前に学校関係者（担任等）に十分に周知くださるよう、お願いします。

# 3 連携パッケージ

YYSP (Young for Young Sharing Program) 教育段階別プログラム

小学校プログラム (1・2・3年生向け)

「わたしがすき、あなたがすき」 45分

テーマ	内 容	時 間	担 当
体を守る  名前の由来	・体を守る働き、体の清潔  ・自分の名前の由来を調べてくる	事前	学 校
わたしのいのち わたしの体	・一人ひとりにつけられた名前は、 「いのち」につけられた名前 ・わたしの誕生 性交～誕生	20分	Y Y S P
	・乳幼児検診時の親子の様子	5分	保 健 所
	・性器 わたしだけの大事なところ ・性被害・加害の防止 「いや！」とっていいよ 傷つけないで！		
[A]自己肯定  他者尊重  共に生きる	・わたしがすき W「わたしの中の宝物さがし」 ・ともだちのすてきなところをさがそう W「この子のいいところはここや」 ・宝物をもちよると、何ができるのだろう？ W「わたしとあなたの宝物をあわせると」	20分	Y Y S P
[B]  自己肯定  感情を表現する	・わたしがすき W「わたしの中の宝物さがし」 ・自分の気持ちを見つめよう W「心の温度計」 ・自分の心とのつきあい方  ・感情を言葉や体で表す	20分	
共に生きる	[A]クラス全員の宝物探し クラスみんなの宝物を合わせたら、どんな ことができるだろう？  [B]いろいろな感情について「心の体温計ワーク」 をする	事後	学 校
	・感想、お手紙などを書く		

## ねらいと留意点

「わたしがすき、あなたがすき」 45分

◎体には、細菌、ウィルス、異物から健康を守る様々な働きがあること知る。  
◎手洗いや規則正しい生活の習慣を身につける。  
◎自分の名前の由来を知ること、周囲の人の思いや願いを感じとる。  
☆体の主体である私たちは、大切な存在であり、一人ひとりに名前がついている。  
☆名前を付けた人が身近にいないまたは、本名でない場合のフォローの準備をしておく。

◎自分の生命は、どのようにして誕生したのかを知る。

◎おとながどのように子どもを守り支えているのかを知る。(自尊感情)  
☆子どもは、周囲のおとなに愛され、支えられて育っていくことを伝える。

◎性器も他の器官と同様に大事な役目をもった器官であり、清潔に心がける。  
◎水着で覆っているところは、「自分だけの大切な部分」で、他人が勝手に見たりさわったりできないことを知る。  
☆誰であっても「いや!」と言っていいことを知らせる。  
☆家庭内での暴力も含めて、性被害に遭っているかもしれないこどもに気づき配慮する。

[A]

◎自分の良さに目を向け、自分のすばらしさに気づく。  
◎他の子の良さに目を向け、それを表現し、伝える。(様々な伝え方)  
☆紙に書く～声に出して伝えることが、他者尊重とコミュニケーションの機会となる。  
◎自分のいい所とともだちのいい所を合わせるといろいろなことができることに気づく。  
☆“共に生きる”ヒントとなる例を提示する。

[B]

◎自分の良さに目を向け、自分のすばらしさに気づく。  
◎自分の心の中には、様々な感情やそのレベルがあることに気づく。  
◎感情を表すたくさんの言葉を知る。  
◎いろいろな生活場面を設定し、そのときの気持ちを表現する。  
☆いい感情、悪い感情と区別しない。  
☆他の人と比較しない。

[A]

◎ともだちや先生から自分のいいところをたくさん得ること、さらに友達の良さを見つけることで、自尊感情、他尊感情が高まる。  
☆協力することの心地よさを感じさせる。

[B]

◎自分の様々な感情に気づき、表現することで周りとの人間関係を豊かにする。  
(自分の気持ちを伝える力、周りの気持ちがわかり受け止める力を高める)  
☆日常的に、自分の感情に敏感になり、表現できるように手助けする。

## 小学校プログラム（4・5・6年生向け）

### 「AIDS～共に生きる」

テーマ	内 容	時 間	担 当
体を守る 心と体の成長	・体を守る働き（白血球の働きなど） ・二次性徴（心・体の変化、個人差、悩みや不安の解消等）	事 前	学 校
病気と闘う力	・免疫、皮膚と粘膜、血液と体液 W 「リンゴワーク」	20分	YYSP
HIV・AIDS	・HIVとAIDSの違い、症状 ・HIVというウイルス ・感染経路、予防、薬害エイズ	20分	
	・日本の感染状況 ・保健所の仕事	5分	保 健 所
【お話】 いのち・人権について考える  世の中のこと	・様々な人がいる、様々な人とどうつきあうか ・エンパワー、共に励まし合う ・感染者の手記  ・世界の状況・問題（南北問題、エイズ孤児・孤老） ・日本の状況・問題 （日本の増加、エイズパニック、薬害エイズ） ・ボランティア、レッドリボン、キルト	30分	JHC
[A]自己肯定感	・わたしがすき W「わたしの中の宝物さがし」	15分	YYSP
[B]共に生きる	・W「大切な人から、感染を告げられとき」	15分	YYSP
共に生きる	・自分への手紙を書こう（学年終了時に開封する） ・振り返り学習 ・感想、お手紙などを書く	事 後	学 校

## ねらいと留意点

「AIDS～共に生きる」 90分（45分×2）

- ◎免疫のしくみについて知る。
- ◎思春期の心と体の変化について知る。
- ☆ありのままの自分の体や成長を肯定的に受け止められるよう指導する。
- ☆多様なセクシュアリティがあることを念頭に置く。

- ◎免疫に関しての“皮膚と粘膜の違い”を知る。
- ☆皮膚は体を守っている一方、粘膜からウィルスが入ることをワークを通して実感できるよう工夫する。

- ◎エイズの基礎知識を持つ。
- ☆日常生活では感染しないことを具体的な場面を示して伝える。

- 
- ◎若者の感染増加傾向を知る。
  - ◎保健所は身近な場所であると共に地域のエイズ対策の拠点であることを知る。
  - ☆感染者・患者のプライバシーに配慮し、数の多少や他の国との比較等について価値観を与えない。
  - ☆乳幼児検診等、こどもは周囲のおとなに見守られ支えられて育っていくことを伝える。

- “いのち”について考えることは、人権のベースである
- ◎HIVの現場にいる者から、生きた情報や生きた訴え、生きた感覚を得る。
  - ◎若い感染者の話から、いのち、性の大切さ、自己肯定感を感じる。
  - ◎世界の様々な人たちの暮らしや思いを知り、共感する。

[A]

- ◎自分の良さに目を向け、自分のすばらしさに気づく。
- ☆自分に「いいところがない」と思っているこどもにも配慮する。

[B]

- ◎ワークショップを通して、共に生きる中での悲しさや喜び等の感情を表出する。

- ◎自分を冷静に見つめて、手紙を書く。
- ☆ゆっくり安心して、自分に向き合えるよう時間・場所を確保する。
- ☆後で開封する時に「自分の心の成長を知ることになる」という期待感を持たせる。
- ◎HIV・AIDSについて確認する。
- ☆こどもの実態に応じて、理解しにくかったことや感じたこと等を話し合う。

## 中学校プログラム I

テーマ	内 容	時間	担当
体を守る	白血球のはたらき 抗原抗体反応 自然治癒力について		学校
心と体の成長	二次性徴 お兄さん・お姉さんの中学生の頃	10分	YYSP
心の体温計	悲しかったこと、嬉しかったことをそれぞれ3つあげ、温度の違いで示す	20分	YYSP
保健所の仕事	思春期相談 抗体検査 エイズ日本の状況	10分	保健所
エイズの基礎知識	HIVとAIDSの違い 感染経路、薬害エイズ、治療		YYSP
自分への手紙	未来の自分に向けて、メッセージを書く	20分	YYSP
事後指導	心の体温計をいろいろな場面で活用する 自分への手紙を卒業前に活用する		学校
	文化祭への取り組みへの支援		保健所

## ねらいと留意点

免疫の仕組みについてくわしく知る
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 二次性徴の現れ方そのものにも個人差があることを伝える</li><li>* 性的マイノリティーの子どもが居ることを念頭においておく</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 抗体検査のしくみをしらせる</li><li>・ 日本の現状、特に若者の増加傾向を伝える</li><li>* 数の多少や、他との比較などについて価値観を与えないようにする</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の感情に気づく→自分を知る→自分を好きになる→他者への共感→共生へとつながるもととなるワークとする</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分を冷静にみつめて、手紙を書く</li><li>・ 後に開封して、自分の心の成長を知る事の期待感をもたせる</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の感情に気づく場面は多いほどよい</li><li>・ 学びから行動（表現）にうつる機会を積極的につくる</li></ul>



## 中学校プログラムⅡ

テーマ	内 容	時間	担当
体を守る	白血球のはたらき 抗原抗体反応 自然治癒力		学校
大切なこと	無人島ワーク 大切な人のピンチ	15分	YYSP
エイズの基礎知識	HIVとAIDSのちがい 感染経路, 薬害エイズ, 治療	15分	YYSP
保健所の仕事	相談活動 日本の状況 抗体検査	5分	保健所
予防	セーファーセックスの講義	5～ 15分	YYSP
愛情表現ワーク	大切な人に対してどのように、その気持ち を伝えるか	15分	YYSP
共生ワーク	友だちが感染したら	15分	YYSP
まとめ	メモリアルキルトを通して	5分	YYSP
事後指導	感染者の手記を読む YYSPや保健所の方々に手紙を書く 文化祭への参加		学校 保健所

注 時間にゆとりがある場合は「共に生きる」の講演をワークの前に

## ねらいと留意点

◎免疫のしくみを詳しく知る
◎いのちについて考えることは「人権」のベースである ◎「かけがえのない命」を意識させるためのワークとする ◎他者への支援を考えさせる
◎新しい正確な知識を得る ◎エイズを自分の問題としてとらえる
◎相談活動や抗体検査の受け方をしらせる（社会資源の情報提供） ◎日本の現状、特に若者の増加傾向を伝える ☆感染者数の多少や、他との比較などについて価値観を与えないようにする
◎予防にはコンドームを使いこなすことが必要条件であることをしらせる ◎いやなことにはNOの意思表示をする ☆性被害にあっている生徒がいる可能性もあることを念頭においておく
◎大切な人の確認と、その人への気持ちの表現ができているかをたしかめる ◎コミュニケーションの方法やスキルを自分で見つけ出す ◎性交以外にも愛情表現の方法があることを知る
◎エイズが遠い世界の事ではなく、自分に近づけるためのワークとする
◎エイズで亡くなった人に思いをはせる ◎「いのち」「セックス」「死」について考える機会とする
◎共感する気持ちから、他への支援の動きができることを学ぶ ◎他に手紙を書くことで、自分の感想・意見・質問を表現する ☆学びから行動（表現）にうつす機会や関係機関の大人と出会う場面を多くつくる

## 高校生プログラム

テーマ	内容	時間	担当
エイズの基礎知識	HIVとAIDSの違い 感染経路, 予防, 薬害エイズ, 治療	15分	YYSP
感染予防ワーク	A 実習・実演 B コンドームコミュニケーション C 性的自己決定	20～ 30分	YYSP
保健所の仕事	保健所のサービス 日本の状況・世界の状況 抗体検査	5分	保健所
共に生きる（講演）	命と人権 日本や世界の感染者の暮らしや思い 様々な人の命や生きる権利	30分	JHC
A こころ曼陀羅 おこない曼陀羅	自分と他者の関係を考えさせる 自分が他者にどんなはたらきかけができるか考えさせる	30分	YYSP
B 共生ワーク	友だちが, 恋人が, 自分が感染したら	30分	YYSP
振り返り	YYSPや保健所の方々へ、手紙を書く		学校
事後指導	文化祭への参加 ポスター／キルトなどで社会への参加		保健所 学校

## ねらいと留意点

- ◎エイズについて、新しい正確な知識を得る
- ◎感染経路ではウィルスの入ってくる場所について具体的に学ぶ
- ◎子どもたちが性感染症を予防するために必要な知識を学ぶ
- ◎予防について自らの問題とする
- ◎薬害エイズの歴史について学ぶ
- ☆身体の影響を提示する際には、障害者に配慮する
- ☆感染経路については男女間だけでなく、他のセクシュアリティに配慮する
- ☆男性・女性にわけられない性(インターセックス)があることに配慮する

☆心も体もリラックスした安心した空間で、強制しないで行う

- A◎実践力をつけるための実習・実演とする
- B◎セックスにおけるコミュニケーションスキルをつける
- C◎自己決定できるよう、具体的な課題(いつ、どこで、誰と、どんなふうに、するかしないか)について考えさせる

◎相談活動や抗体検査の受け方をパンフレット等を配布して知らせる  
(社会資源の情報提供)

- ◎日本の現状、特に若者の増加傾向を伝える
- ☆感染者数の多少や、他との比較などについて価値観を与えないようにする

◎いのちについて考えることは「人権」のベースとなる

◎自分のいのちの大切さを感じ、他者のいのちの大切さ・社会の様々な人のいのちの大切さを感じる

A◎自分と他者との関わり(想像上の社会的存在)について、どう感じるかを考えさせる

- ◎自分と他者との関わり(想像上の社会的存在)について、どう行動するかを考えさせる

B◎エイズが遠い世界のことではなく、自分に近づけるためのワークとする

◎HIVについて身近な問題ととらえて考える

◎HIVを通して自分の心の中をみつめる

◎手紙を書くことで自分の心を内在化させる

◎エイズ予防財団等のポスターコンクールに参加させる

◎学んだことを行動にうつす場面を多くする

# 4 病気と免疫について

病気って何だろう？

出典「AIDSをどう教えるか」

編集者 五島真理為  
尾藤りつ子  
発行 解放出版社

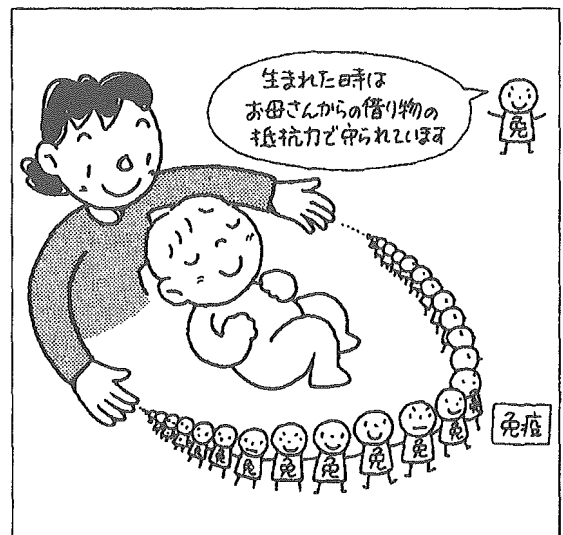
# 病気って何だろう

## AIDSという病気を知る①

### ●お母さんからの借り物の抵抗力で守られている新生児

生まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんのおなかのなかで胎盤をとおして「抵抗力」をもらっています。また、母乳にも赤ちゃんを病気から守るいろいろな成分が含まれています。ですから、赤ちゃんは最初の4カ月ぐらいはほとんど病気をしません。

でも、これらの抵抗力は借り物ですから、4カ月を過ぎると弱くなり、赤ちゃんを病気から守ることができなくなります。そして私たちのからだはお母さんの抵抗力で守られていた時期から、自分の抵抗力を身につける時期へと成長していきます。



### ●自分の抵抗力を身につける

生まれてから4カ月を過ぎると、多くの赤ちゃんは「突発疹」という病気にかかります。この病気は3日間熱がつづき、熱が下がると同時に赤いブツブツがからだ中にひろがって、2～3日で消えて治ります。知恵がつきはじめる頃に必ずかかる病気ということで、昔から「知恵熱」と呼ばれてきました。この突発疹は、一度かかると二度とかかりません。「知恵熱」のあと、子どもはたくさん病気にかかります。何種類もの風邪、水ぼうそう、おたふく風邪、手足口病、りんご病などです。このように私たちは小さかった頃、この世の中で流行するいろいろな病気にかかることで、抵抗力を身につけてきました。

昔から親は子どもの一人が病気になったとき、ほかの子どもに病気をうつすことをそれほど気にはしなかったので、子どもを「隔離」ということはしませんでした。それは「うつしあい、うつりあう」ことで、それぞれが自分の抵抗力を身につけることを望んだからです。

## ● 病気にかかることは病気を学習すること

一度かかった病気にたいして、二度とかからないか、かかっても軽くすむからだの働きを「免疫」(2回目からは疫を免れる<sup>まぬが</sup>という意味)といいます。免疫の働きは生きていくためにはとても大切なもので、どんなときにもたえずからだを守ってくれています。免疫の働きが弱くなる病気にかかる、ふつうではかかることのない弱いウイルスにおかされるのはこのためです。免疫の力はもともと備わっているものですが、うつる病気にかかることによって鍛えられ、はじめてその力を発揮できるようになります。病気にかかることは、いろいろなことを学習するのに似ています。「かかる=学習する」ことで、免疫の記憶を長いあいだ、からだにたくわえていきます。病気にかかりながら自分の抵抗力を身につけていくことは、成長していく子どもにとって必要で大切な仕事です。

うつる病気をさけつづけて、かからないままでおとなになった人は、子どもからやり残しの病気をもらうことになります。水ぼうそうやおたふく風邪などは子どもでは比較的軽い病気ですが、おとながかかると重くなりがちです。病気は、子どものとき、きちんと学習をすませておく方がいいでしょう。

注● 重い病気や、後遺症を残す恐れのある病気などにはワクチンが開発されていますので、それらをじょうずに利用することも大切です。

### 解説

0歳児は、生後、母親の免疫の力に守られながら、自分自身の病気にたいする「抵抗力=免疫機能」を発達させていく。しかしこの母親からの免疫力は長続きせず生後3~9カ月にかけてほとんど消失し、はしかをはじめいろいろな感染症にかかるようになる。

私たちのからだはこれまでかかったことのない病原体が侵入すると、一連の症状を引き起こす。これにたいしてからだでは、からだを守る巧妙なしくみ=免疫反応を働かせる。

免疫反応の主役は「リンパ球」で、大別して2種類ある。一つは胸腺でつくられるリンパ球で、リンパ球そのものが病気に反応して病気の原因である病原微生物を殺す。もう一つは骨髄でつくられるリンパ球で、病気に反応して「抗体」をつくる。この抗体は血液中や鼻粘膜、腸粘膜などの局所に分泌され病原微生物に特異的にくつき、その働きを弱めたり、失わせたりする。からだを守

る免疫反応は、おもにこれらのリンパ球と抗体の働きによるものである。

子どもの時期に病気にかかるということは、この免疫機能を身につけるために必要な営みである。



「よいどれシスターズ」というグループが作ったキルト

# HIVによって抵抗力がさがる病気AIDS

## AIDSという病気を知る②

### HIVとは？

- H Human (ヒト) ……………人間
- I Immunodeficiency (免疫不全) …「免疫(病気からからだを守る働き)」をこわしてしまう
- V Virus (ウイルス) ……………ウイルス

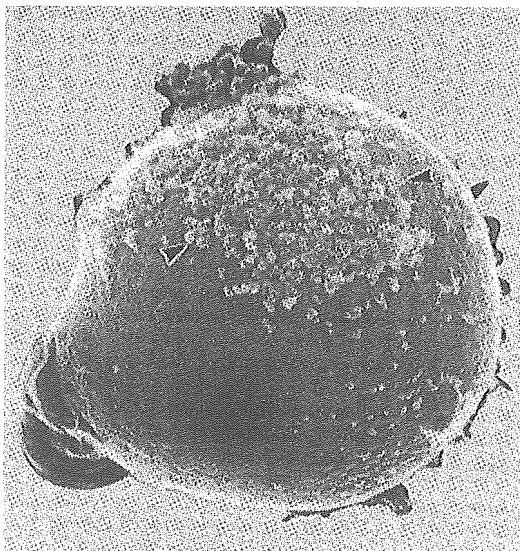
HIVがからだに入ると、「免疫(病気からからだを守る働き)」が十分に働かなくなって「抵抗力」が弱くなります。そのためHIV感染者は、自分が病気を他人にうつすより、自分がいろいろな病気にかかる危険性のほうがはるかに大きいのです。

### AIDSとは？

- A Acquired (後天性) ……………遺伝によるものではなく、生まれた後から
- I Immuno\* (免疫の) ……………病気になるのを防ぐ働き(抵抗力)
- D Deficiency (不全) ……………不十分になる(HIVにおかされて)
- S Syndrome (症候群) ……………いろいろな病気や症状がでる

\*Immuneと表記される場合もあります

HIVに感染してから、8～10年ぐらい、とくに症状のない時期を経過した後、いろいろな病気や症状がでることによって、はじめて「AIDS」と診断されます。しかし現在では、早期に治療を開始することで、AIDSの発症をおくらせることが可能になりました。また、HIVに感染した人がすべてAIDSを発症するとはかぎりません。



AIDSはHIVに感染して免疫力が弱くなるために起こるさまざまな病気の総称で、HIV=AIDSではありません。

HIV粒子の電子顕微鏡写真。HIVに感染したリンパ球。表面に群がるようについているたくさんの小さな粒子がウイルス(▶印で示したもの)



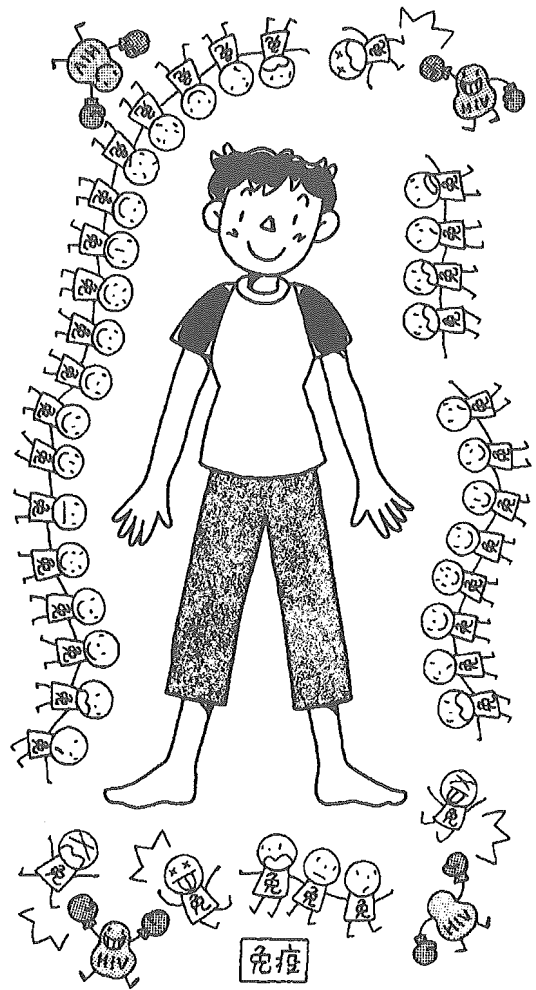
## ● HIVは免疫（病気からからだを守る働き）をこわす

血液のなかの白血球の仲間であるリンパ球は、からだのなかに入ってきた細菌やウイルスを攻撃して取り除き、病気にかからずすんだり、病気になったとしても軽い症状ですむようにする働き（免疫）をします。

HIVはこのリンパ球のとくにCD4細胞（ヘルパーT細胞）というリンパ球に好んでとりつき、こわしてしまいます。このときもからだのなかでは、この免疫は働き、HIVを攻撃しますが、HIVはその性質をどんどん変えて攻撃をかわし、仲間を増やしていきます（増殖）。そしてHIVに感染した人は免疫の働きが落ちていく免疫不全となります。

このように免疫不全の状態になると、健康なときには何でもないような弱い細菌やウイルスやカビも退治できなくなり、いろいろな病気にかかるようになります。

CD4細胞の数や、ウイルスの数がHIV感染症の進行状態をはかる、一つのめやすとなります。



### 解説

HIVは自分の遺伝情報RNA（リボ核酸）をもつレトロウイルスであり、そのRNAをDNA（デオキシリボ核酸）に変換する逆転写酵素をもっている。

HIVは免疫機構の中心となるCD4細胞（ヘルパーT細胞）とマクロファージを宿主として入りこむ（マクロファージはHIVの貯蔵庫のような役割をするため、CD4細胞のように破壊されることはあまりないとされている）。

そして増殖するときにRNA→DNA→RNAという変化をし、RNAからDNAに変化するときに逆転写酵素が活躍する。

増殖したDNAは、RNAに転写され衣に包まれて新しいHIVとして放出されると同時に、このCD4細胞は破壊される。その後、次つぎとCD4細胞が破壊されることで人間の免疫力が低下し、病原体の活動をたやすくする。

# 5 1万人調査の示すもの

平成16年度エイズ対策における関係機関の連携による  
予防対策の効果に関する研究・分担研究報告

関係機関の連携による若者相互の  
エイズ啓発プログラムの効果

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）  
分担研究報告書

エイズ対策における関係機関の連携による若者相互の  
啓発プログラムの効果に関する研究

主任研修者 五島真理為 特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター 理事長

分担研究者 伊藤葉子 中京大学 講師

山本 勉 岡山県立大学 教授

守山正樹 福岡大学医学部 教授

新庄文明 長崎大学大学院 教授

宮坂洋子 HIV かごしま情報局 代表

前川 勲 WITH 代表

研究協力者 伊藤麻里子 財団法人 エイズ予防財団 リサーチレジデント

大郷宏基 特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター 中部支部

阿部しのぶ 特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター インターン

ケイトリン・ストロネル 特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター 国際部

研究要旨

若者相互の啓発プログラム（YYSP）の参加者11711名を対象として、実施前と実施後の同一項目のアンケートの回答内容を分析した結果、以下の点が明らかとなった。

- ① YYSP による若者啓発プログラムの予防および人権にかんする啓発効果がみられた。
- ② A 県高校生と全国高校生のいずれにも同様の効果があり、全国で展開することによる効果の波及が期待できる。
- ③ ワークショップ形式をとりながら進める啓発は、知識の習得だけでなく、AIDS を自らの問題とする認識、自己及び他者、PWA に対する姿勢の変化の効果もあり、行動変容につながる可能性が示唆された。
- ④ 中等教育の段階では、知識の習得の効果が大きかった。知識習得には早期から始めることが効果的であることが示唆された。
- ⑤ 専門学校、大学等の教育段階では、AIDS に対する認識の高まり、AIDS や性についてのコミュニケーション姿勢の変化が顕著であり、ピアの担い手となる可能性が期待される。
- ⑥ 若者相互のかかわりを通じたプログラムの実施は、若者によるロールモデルの提示としての有効性が示唆された。

## A. 研究目的

本研究は、HIV 感染予防対策における NGO と関係機関（保健所、教育機関、医療機関）との連携のうち、無関心層を含めた感染予防となる一次予防について特に若者相互の予防啓発プログラムの効果の評価をおこなうことを目的として実施した。

## B. 研究方法

### (1) 対象

1998年7月から2005年2月までに、保健所、教育機関ならびにNPO法人HIVと人権・情報センターとの連携の下に実施されたYYSP (Young for Young Sharing Program) の取り組みに参加した中学、高等学校、専門学校、大学等の若者を対象として実施した。

実施回数は、合計で323回、総参加者は27,117名であった。

### (2) 方法

YYSP 実施の実施前と実施後に同一項目のアンケートを実施した。また、実施後には実施した感想についての回答を求めた。

アンケートは実施前後とも無記名にて実施され、回答者が自由に選択した4桁の番号の記入を求めてIDとすることにより、前後を確認した。

アンケートの内容は、1998年以降、年度や対象により若干の変更はあるが、AIDSに関する知識、意識、態度等を共通の項目とした。

分析にあたっては、回答者が自由選択した4桁のIDによって実施前後の番号が一致した11,711名の回答内容を対象とした。対象者の内訳は中学校12校、12回(1,243名)、高等学校54校、56回(9,904名)、大学・短大7校、7回(231名)、外国人学校1校、1回(12名)、専門学校8校、8回(266名)、教員及び一般社会人2箇所、2回(24名)、障害者3箇所、3回(31名)の合計89回であった。

## C. 研究結果

### I. 調査全体に見る HIV/AIDS に対する知識・認識・態度等に関する結果

#### (1) HIV/AIDS に関する基礎的知識の獲得

##### ① HIV 感染と AIDS 発症の違いを理解する

「HIVに感染した人は全てAIDSを発病するか」の問いに対し「いいえ(感染したからといって発病しているとはいえない)」と正しく回答するものが事前36.5%から事後59.8%に増加した。また「わからない」と曖昧な回答をするものが事前43.5%から事後19.4%に減少した。

(図 f-3)

##### ② 感染の可能性のある体液を理解する

「感染する可能性のある体液はどれか」と、血液、唾液、精液、涙、母乳、汗、膣分泌液のうち、該当するものを選ぶ設問に対し、「血液、精液、母乳、膣分泌液」の正しい体液を回答するものがいずれも増加する。特に、事前では回答率の低かった「母乳」「膣分泌液」については、大幅な増加が見られた。(図 f-4)

##### ③ 感染の可能性のある行為を理解する

「感染する可能性がある行為はどれか」と、せき・くしゃみ、握手、性行為、ペット、注射の回し打ち、母子感染、プールや銭湯の利用、ダニのうち、該当するものを選ぶ設問に対し、「性行為、注射の回し打ち、母子感染」の正しい行為を回答するものがいずれも増加する。特に、事前では回答率の低かった「母子感染」についての増加が目立った。また、ペット、ダニなどの人以外を通しての感染や、せき・くしゃみ、プールや銭湯の利用などの日常生活を通じた行為では感染しないことが理解できている。(図 f-6)

##### ④ 完全な知識を獲得する (図 f-30)

感染の可能性のある体液及び行為のい